

本日、ミナスジェライス州議会が主催して、ウジミナス・プロジェクト発足 60 年を記念して、このような式典を実施していただけることを、日本政府を代表して感謝いたします。

ミナスジェライス州は日伯協力プロジェクトの代表的なサクセス・ストーリーであるウジミナス、セハード農業開発、セニブラなど多くの大型日伯協力プロジェクトの発祥の地であり、本日のその州議会で発言の機会を与えられたことを誠に光栄に思います。

1950 年代、日本は戦後の混乱期から脱出して、鉄鋼業を中心とする産業立国に向けて歩み始めたところでした。クビシェッキ大統領は、ブラジルの日系人移民の勤勉な姿勢を評価し、ブラジルの近代化のためには日本の技術が有用と考え、日本に協力を要請しました。日本政府も、豊富な鉄鉱石資源を持つブラジルとの協力プロジェクトは必ず成功するという信念のもと、1957 年 6 月 3 日、「日伯合弁製鉄会社設立に関する協定」、いわゆる「堀越・ラナリー協定」が結ばれ、ウジミナス・プロジェクトは歩みを始めました。

それから 60 年間、ここミナスジェライス州において、ウジミナスはブラジル人と日本人が共に夢を描き、それを実現させ、ブラジルの経済発展と日伯二国間関係の深化に貢献してきました。

その中、プロジェクト成功のため、日本側企業（新日鐵住金）は惜しみなく資金や先端技術を提供してきました。ミナスジェライス州政府及び関係者からの温かい支援もありました。ブラジル人と日本人は共に知恵を出し合い、数々の困難を克服してきました。本日は、その当時の功労者も多く出席いただいていると聞いています。皆様の力が、現在のウジミナスの土台を作りました。皆様の貢献に感謝いたします。

日伯両国が首脳間の合意に基づく戦略的グローバルパートナーシップを深化していくなかで、ウジミナスがこれまでの 60 年から次の 60 年へと日伯協力のシンボルとして、この国の経済に貢献するプロジェクトとして末永く発展することを期待し、また確信しております。